

尾鷲市「津波対策検討委員会」での意見

平成17年2月6日

尾鷲市

1. 地震予知観測網・津波情報システムの構築

東海地震発生における予知観測網についてはひずみ計の設置等整備されておりますが、東南海・南海地震の観測網等についても東海地震と同様の予知に向けての観測態勢の整備拡充を図るとともに、津波の観測及び通報システムを早期に構築することで迅速な避難を呼びかけることが人命を守る上で最も有効な手段と考えますので積極的な取り組みを進めていく必要があるものと考えております。

2. 孤立化対策

大規模地震が発生した場合を想定すると、交通、通信の寸断が予想され孤立地域が多数発生すると懸念されます。本市のように交通網の整備が遅れている地域への救援・救護活動は、空路・海路に頼らざるを得ないのではと懸念いたしております。このことから、現在建設中の高速道路は命の道として大変重要な役割を担うものであり、早期完成を望むものであります。また、空路につきましては、防災拠点地区を国において指定し、複数機が離発着可能なヘリポートの設置が急務であるものと考えております。このため高速道路の

建設の中で、インターチェンジの空地等にヘリポートの設置を計画することも可能ではないかと考えております。一方、海路による救援等につきましては、東南海・南海地震による被害想定を念頭に、重要な港湾には耐震バースを設置し救援物資等集積基地として位置づけることも災害対策として必要と考えております。

3. 防潮堤の開閉の自動化

先のスマトラ沖地震津波においても堤防が津波の波力を弱める効果があったと見受けられました。そこで、港湾に構築されている防潮堤の耐震化と開閉の自動化を図ることが、被害の軽減に繋がるものと考えておりますが、国、県、市管理と縦割りの港湾管理となっていることから、津波対策として各省庁の枠にとられない一体的な取り組みが必要と考えております。

4. 津波対策総合シミュレーションの作成について

地震発生に伴う津波の被害想定については、各地方自治体に於いて津波ハザードマップを作成し、住民に対する啓発活動に活用されているものと思います。

尾鷲市に於きましては、平成10年に、本委員会の委員長の河田先生が尾鷲湾における津波シミュレーションを作成され、住民の意識高揚に活用させていただいておりました。

現在、群馬大学の片田助教授を中心とした研究グループが、津波

避難シミュレーションを作成され、住民の啓蒙、啓発活動に活用するとともに、ホームページも開設し公開させていただいております。

このシミュレーションは、昨年9月5日に発生した紀伊半島沖地震の住民避難行動のアンケート調査結果を基に作成されたものでアニメーション化されており、リアルな被害状況が動画として画面表示されるなど、被害想定を予測する上に於いても極めて有効であるものと考えております。

このため、津波防災のソフト・ハードの両面对策上からも、可及的速やかにこのシミュレーションを各地方自治体に普及させることも重要な施策であるものと考えております。

地方的

港湾（漁港を含む）における津波監視・通報システムの設置を実施して頂きたい。住民を津波の襲来から守るためには、地震発生後迅速に津波の発生、規模等また、到達時間等いち早く住民に伝達することが、最も重要であるものと考えております。このため、地震の発生が予想される海域に津波監視システムや通報システムを設置することが急務と考えております。